

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立星が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	220人	社会	219人	数学	219人
	理科	217人	英語	217人		

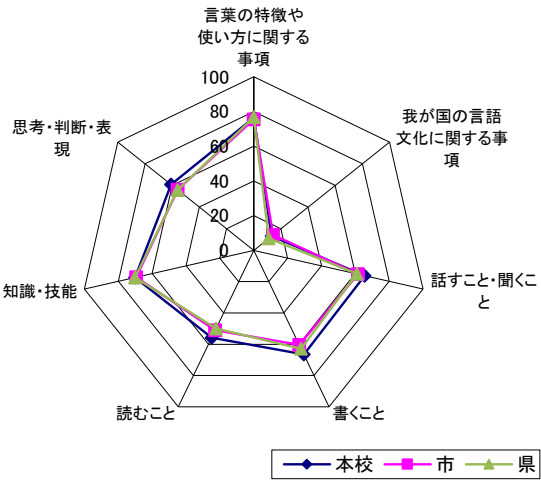
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.4	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	13.2	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	65.5	61.6	60.9
	書くこと	66.5	60.4	62.9
	読むこと	55.9	51.0	49.9
観点	知識・技能	70.1	69.4	70.1
	思考・判断・表現	60.9	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

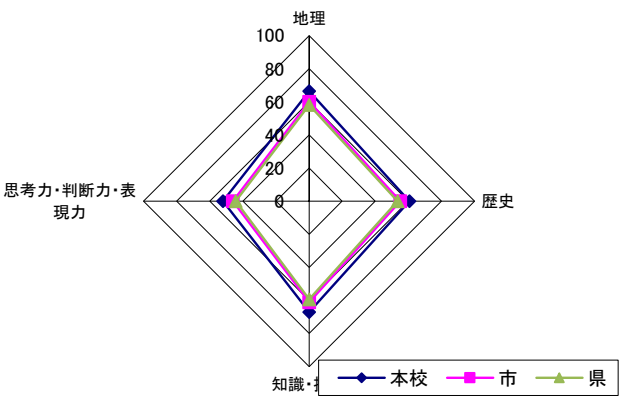
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○領域の正答率は、市の平均を0.9ポイント上回っている。また、漢字の読みや文法についての問題は正答率が高く、知識が定着していると考えられる。 ●漢字の書き取りの問題の正答率が3割程度と低かった。	・漢字の読みや文法については、これまで同様、問題演習を通して知識を身に付けさせ、更に知識の定着を図っていく。 ・漢字の書き取りについては、小テストの回数を増やしたり、家庭学習でも取り組むよう促したり、漢字を書く機会を増やす。 ・授業の中で文章を記述させる際にも、既習の漢字をなるべく使うよう指導する。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の正答率は、県の平均を2.0ポイント上回っている。 ●県の平均は上回っていたが、市の平均を1.1ポイント下回っている。また、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題への無回答率が、市よりも県よりも高く、古典分野に関する苦手意識や基礎知識の理解不足が見られる。	・歴史的仮名遣いについて、古典分野を扱う授業の際に、既習事項の復習を行い、基礎知識の定着を図る。 ・現代仮名遣いに直す際、そもそも単語自体を知らず、仮名遣いを直せないことも考えられるため、語句の意味調べなどの時間を確保し、語彙力の向上に努める。
話すこと・聞くこと	○領域の正答率は、市の平均を3.9ポイント、県の平均を4.6ポイント上回っており、選択問題の無回答率は0%であった。 ●条件に従って自分の考えを書く問題では、正答率が市の平均を0.3ポイント下回っている。また、無回答率も13.6%と、記述になると書けない生徒が一定数いることが分かる。	・話すこと・聞くことの内容については、選択肢を与えられていればほぼすべての生徒が解答できるが、考えを記述させるような、解答を一から自分で考える問題に対しては、答えを書かない、あるいは書けないなど無回答の生徒がいる。授業の中で自身の考えを記述させる際に、まずはキーワードから考えるなど、スモールステップで段階を踏みながら書けるような指導をしていく。
書くこと	○領域の正答率は、市の平均を6.1ポイント、県の平均を3.6ポイント上回っている。設問ごとの正答率も、6割前半から7割前半と、設問によって大きく偏ることなく正解している。 ●設問ごとの無回答率が、県の平均をいずれも1.1ポイント上回っていた。	・書くことの設問は、いずれも無回答率が15.5%と、書かない生徒が一定数いるため、授業の中で、自身の考えを記述させる際に、まずはキーワードから考えるなど、スモールステップで段階を踏みながら書けるような指導をしていく。
読むこと	○領域の正答率は、市の平均を4.9ポイント、県の平均を6.0ポイント上回っており、全ての設問の正答率が市と県の平均を上回っていた。 ●「文章の内容を説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く」設問の正答率が18.6%、「登場人物の行動や心情を時間の流れに沿って並べ替えて書く」設問の正答率が36.8%と低く、課題が残った。	・文章の流れに当てはまる語句や接続表現のもつ効果について、授業でもっと詳しく学習するようにする。 ・登場人物の心情を、台詞、行動描写、情景描写を元に推測させ、場面ごとの最も大きな心情を確認させるようにする。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	66.4	60.1	58.1
	歴史	60.6	55.1	53.5
観点	知識・技能	67.0	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	52.0	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

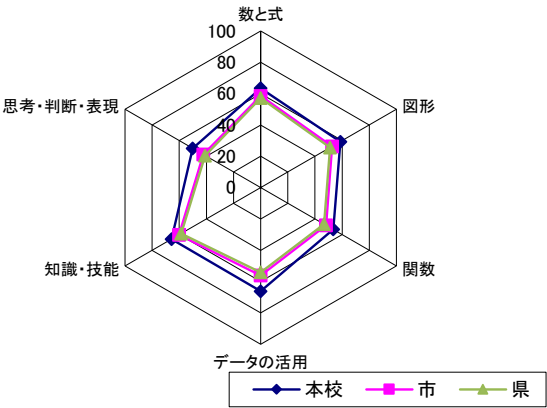
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○領域の正答率は市の平均を6.3ポイント、県の平均を8.3ポイント上回っており、「世界の姿」、「世界各地の人々の生活と環境」などの内容は概ね身に付いている。 特に、「ヨーロッパ州で見られる特徴的な地形」について理解しているかを見る問題では県の平均を18.1ポイント、「オーストラリアへの移民の推移の内容」を資料から読み取る問題では、県の平均を11.9ポイント上回っている。 ●「排他的経済水域の範囲や権限」について理解しているかを見る問題や「日本の都道府県の特徴」について理解しているかを見る問題の正答率は、県の平均をやや上回ってはいるものの、他の問題に比べると課題が見られる。	・日本の領域や都道府県の特徴など「日本の姿」の学習内容が定着するような問題演習や、資料の読み取りなどの学習活動を行っていく。また、「日本の諸地域」の学習においても、関連する内容を取り扱う際に意図的に既習事項の復習問題を取り入れ、学習内容の定着を図る。
歴史	○領域の正答率は市の平均を5.5ポイント、県の平均を7.1ポイント上回っており、「古代までの日本」、「中世の日本」などの内容が概ね身に付いている。 特に、「鎌倉時代の軍記物」について理解しているかを見る問題では県の平均を16.9ポイント、「シルクロードを通じた東西の交易」について、複数の資料を関連付けて考察し、表現する問題では、県の平均を14.9ポイント上回っている。 ●「藤原頼道が建てた建築物」について理解しているかを見る問題では、県の平均を6.2ポイント下回っている。	・建造物などの各時代の文化に関する理解を深めるために、写真資料や映像資料を活用していく。また、既習事項が着実に知識として定着するよう定期的な復習問題の演習を取り入れていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.4	58.6	57.2
	図形	58.7	52.6	51.1
	関数	53.4	48.2	46.8
	データの活用	66.1	56.1	54.1
観点	知識・技能	65.7	60.2	58.6
	思考・判断・表現	50.1	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

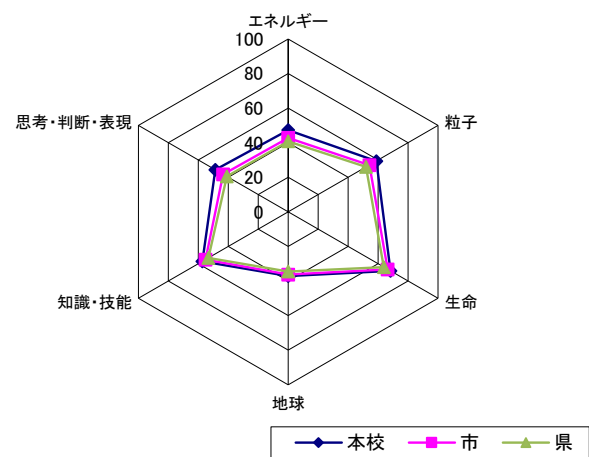
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の正答率は市の平均を4.8ポイント、県の平均を6.2ポイント上回っている。無回答率も市・県の平均に比べて低い。 ●正負の数の大小関係について答える問題についての正答率が13.2%と低く、市・県の平均を下回っている。	・正答率が低かった正負の数の大小については、文字a, bに具体的な数を設定し、実際に計算させることで理解を深めさせる。また、数式の計算については、普段から粘り強く計算することを習慣づけていく。 ・数学的な用語については、教師が「正しく使うことを心がけて発問したり、生徒の発表においても、用語を正しく使うように意識させたりする。
図形	○領域の正答率は市の平均を6.1ポイント、県の平均を7.6ポイント上回っている。 ●半径が等しいおうぎ形と円の面積の大きさについて考える問題では、市の平均を4.5ポイント上回っているものの、正答率が3割に満たず、理解が不十分である。	・作図に関しては、線を引く根拠を理解できるよう粘り強く指導していく。 ・図形の面積の割合に関する問題については、割合の理解度の低さが正答率の低さにつながっている。小学校での割合の内容が定着していない生徒が多いので、AIDリルを活用し、既習内容の復習を行う。
関数	○領域の正答率は市の平均を5.2ポイント、県の平均を6.6ポイント上回っている。 ●比例の式から、比例のグラフをかく問題では、市や県の平均を上回っているものの、正答率が53.0%であった。	・関数の利用の問題については、文章を正しく読むことが課題である。問題の一部だけで判断したり、問題の重要な部分を見落とししりすることがないように指導する。 ・表⇄式⇄グラフの変換がまだ定着していないので、つねに表、式、グラフを関連づけて問題に取り組むよう指導する。
データの活用	○領域の正答率は市の平均を10.0ポイント、県の平均を12.0ポイント上回っている。 ●度数折れ線から傾向を読み取り説明する問題について、正答率は市や県の平均を上回っているものの、無回答率が26.9%と高い。	・学習する有用感を感じさせる工夫が必要である。ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解すること、目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、考察し判断することを授業で実践する。 ・他の領域に比べ、学習する期間が短く、復習する機会も少ない。AIDリルを活用し、既習内容の復習を行う。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	47.3	42.8	40.8
	粒子	58.9	54.2	52.0
	生命	68.3	66.4	63.8
	地球	37.1	36.2	34.5
観点	知識・技能	57.3	55.2	53.3
	思考・判断・表現	48.6	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

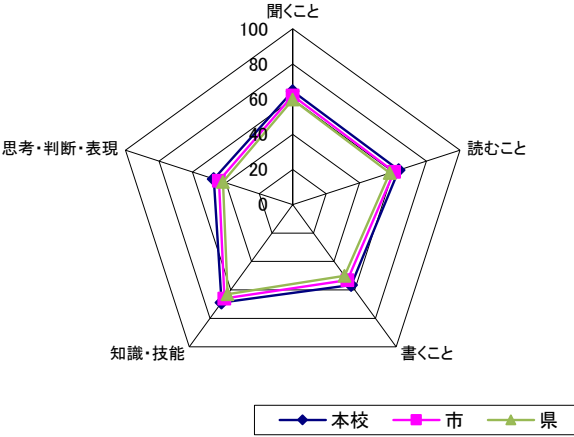
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域の正答率は市の平均を4.5ポイント、県の平均を6.5ポイント上回っている。特に、光の性質では、光の道すじを作図する問の正答率が50.7%であり、市の平均を15.9ポイント、県の平均を20.5ポイントも上回っており、作図の練習を多く取り入れた成果であるといえる。 ●ばねに加えた力を求める問題では、正答率が20%未満であり、理解が不十分である。	・計算問題では、時間をかけ丁寧に指導を行い、解けるようになるまで繰り返し練習させる。また、計算に用いられる数値の意味を理解できるよう指導していく。
粒子	○領域の正答率は市の平均を4.7ポイント、県の平均を6.9ポイント上回っている。特に、質量パーセント濃度や結晶の質量を求める計算問題では、どちらも県の平均正答率を10ポイント以上、上回っている。 ●結晶の質量を求める計算問題では、市や県の平均を大きく上回っているものの、正答率が40%以下であり、理解が不十分である。	・エネルギー分野と同様に、計算問題では、考え方を丁寧に指導し、繰り返し問題に取り組ませる必要がある。AIドリルを活用し、個人の理解度に応じた問題を出題するなどして苦手意識の軽減に努める。
生命	○領域の正答率は、市の平均を1.9ポイント、県の平均を4.5ポイント上回っている。特に、卵生の名称を答える問題では正答率が90%を超え、定着が図られている。 ●胚珠の名称とイチョウの雄花を選ぶ問題は、正答率が40.6%と低く、理解が不十分である。	・植物は、覚えるつくりの名称が多いため、重点的に復習をし、理解を深めさせる。
地球	○領域の正答率は、市の平均を0.9ポイント、県の平均を2.6ポイント上回っている。特に、P波の速さを求める問題は県の平均を6.4ポイント上回っており、波の速さについての計算は理解できている。 ●震源からの距離を求める問題では、正答率が10%未満であり、かなり課題が残る。	・他領域に比べ、理解が不十分である。動画教材や実物の提示、実験を行うなどして、興味・関心をひきながら理解を深めさせていく。知識・技能の問題は、重要語句の復習を丁寧にを行い、知識を定着させていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	64.5	62.0	59.7
	読むこと	63.4	60.6	58.0
	書くこと	56.5	53.1	50.1
観点	知識・技能	68.9	66.0	63.0
	思考・判断・表現	47.2	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の正答率は市の平均を2.5ポイント、県の平均を4.8ポイント上回っている。 ●「英文の要点を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える」という問いの正答率が26.7%と低い結果となっている。	・授業の中で聞き取ったことやたずねられたことを正しく理解し、自分の考えを正確に伝えられるようペアワークやスモールトークの活動を通して促していく。 ・デジタル教科書の活用や授業でのALTの発音の聞き取りを通して、積極的に情報を整理して受け取る練習を取り入れ、正しく自分の考えを伝える力が伸びるよう指導する。
読むこと	○領域の正答率は市の平均を2.8ポイント、県の平均を5.4ポイント上回っている。 ●「対話から必要な情報を読み取り、適切なものを選ぶ」問いは県の平均をわずかに上回っているが、他の問題と比較して正答率が50.2%と低く、読む力の不足がみられる。	・短い文からスモールステップで少しずつ長文に取り組むことや教科書を活用することで、英文の概要をつかんだり、要点をとらえたりする力を伸ばしていく。 ・対話文、説明文、物語文など様々な長文に慣れることと同時に読み取ったものをきちんと整理し、自分の考えをまとめるような活動を行い、正確なアウトプットを意識づける指導を継続的に行う。
書くこと	○領域の正答率は市の平均を3.4ポイント、県の平均を6.4ポイント上回っている。 ●「語形・語法の理解」という設問で、基本的な文法の理解やそれを使って正確に書くことが市や県の平均をわずかに下回っており、理解が不十分である。	・最も習熟度の個人差が大きい領域のため、基本的な表現や既習文法を使った作文練習を授業の中で取り組ませ、習熟度学習などの指導で生徒が自信をもって学習に取り組めるよう丁寧に支援を行う。 ・伝えたいことを意識して自分の意見をまとめるなどの活動を通して、段階的に正しく文章が書ける力を伸ばしていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」について肯定的回答をした生徒の割合は64.5%であり、市の平均より6.9ポイント、県の平均より8.5ポイント高く、学習に自ら取り組む生徒が多い。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」について肯定的回答をした生徒の割合は78.3%で、学ぶ楽しさを感じている生徒が多い。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」について肯定的回答をした生徒の割合は80.2%で市や県の平均よりも高く、級友との良好な関係が築けている生徒が多い。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」に対する肯定的回答をした生徒は96.8%で、市や県の平均よりも高く、学級での話し合いのルールがきちんと出来ており、他者の意見を尊重していることがわかる。

○「自分にはよいところがあると思う」について肯定的回答をした生徒や、「自分の行動や発言に自信をもっている」に肯定的回答をした生徒は、市や県の平均よりも高く、自己肯定感が高められている。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」について肯定的回答をした生徒の割合は81.6%で、市や県の平均よりも高く、円満な家庭環境の生徒が多い。

●ふだん、1日当たり、テレビゲーム(コンピューターゲームや携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームなど)を2時間以上していると回答した生徒が38.3%で、昨年度の2年生より4.9ポイント増加した。また、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上していると回答した生徒も24.8%と昨年度の2年生より4.0ポイント増加した。市や県に比べるとゲームもメール等の時間も少ないものの、昨年度より増えている傾向があるので、今後も情報モラル教育とあわせて携帯電話やスマートフォンの利用時間についての指導や、家での時間の有効活用の指導の継続に努めていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成 ・本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶ生徒の育成	・各教室にホワイトボードを据え置き利用することやClassroomの利用やJamboardの共有、学びポケットの活用などを推進する。 ・授業において『本時の目標』の提示や、ねらいに即した展開をする。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」や「クラスは発言しやすい雰囲気である」に対する肯定的回答が、市や県の平均よりもやや高い。 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に対する肯定的回答も、市や県の平均よりも高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」に対する肯定的回答が昨年と同様で67.8%であり、県の平均より6.5ポイント低くなっている。	振り返る活動の充実	宇都宮モデルの「はっきり・じっくり・すっきり」の中で、すっきり視点である学ぶことの良さを実感できる授業の展開に努めることや、まとめや振り返りの活動において自分のノートやワークシートにまとめさせたり、発表させたりする活動を、今後も継続して行う。